

岩手県におけるカツラマルカイガラムシの生態

1 はじめに

カツラマルカイガラムシ（写真）は、クリ、コナラ、ブナ、ナナカマド等多くの樹木を加害します。写真のように枝にびっしりと寄生して樹液を吸汁するため、枝枯れを引きおこし、激害の場合は樹木が枯死することもあります。

本種の広葉樹林における被害は平成11年に山梨県で確認され、その後、長野県、新潟県、山形県に拡大しました。近年は福島県、宮城県、秋田県で被害が確認され、岩手県では平成20～21年に確認されました。平成26年時点で盛岡市以南の北上川沿いの低地で被害が発生しています。

本種の防除にあたっては、生態を知ることが大切であり、本県での観察例などから本種の生態について紹介します。

2 カツラマルカイガラムシの生態

【成長過程】図1に本種の成長過程を示します。卵からふ化した段階を1齢幼虫といいます。初期の1齢幼虫は介殻（かいこう）に覆われておらず、脚があり自由に歩き回ります。やがて枝に定着した1齢幼虫は介殻を形成し、その後は2齢幼虫、成虫となります。雄成虫と雌成虫で全く形態が異なり、雄は蛹を経て翅をもつ形状に羽化します。飛び回って雌成虫を探し、交尾をすると死んでしまいます。一方、雌成虫は介殻に覆われ、定着した場で口針を樹木に刺し吸汁します。雌成虫は交尾後、体内で産卵し（卵胎生で仔を産む）、次世代の1齢幼虫は介殻の下から這い出てきます。

【発生生態】本種の生活史を図2に示します。岩手県では年2世代であり、1世代目の1齢幼虫は7月上中旬に現われます。8月頃に2齢幼虫となり、8～9月に成虫となります。この雌成虫が産卵し、9月下旬から10月上旬に2世代目の1齢幼虫が現われます。1齢幼虫は最初歩き回りますが、やがて樹

木に定着し、1齢幼虫のまま越冬します。翌年5月頃に2齢幼虫となり、6月中旬には成虫となります。2世代目を越冬世代といいます。

以上のように、本県では1齢幼虫が7月上中旬と9月下旬～10月上旬の2回出現します。

3 成果の活用

カイガラムシを殺虫剤散布で防除する場合、介殻に覆われていると殺虫剤が虫体に届かず効果が低くなります。介殻に覆われないのは1齢幼虫の初期だけなので、防除にあたっては1齢幼虫の出現時期を把握することが重要となります。

謝辞 本報告の作成にあたり、独立行政法人森林総合研究所 浦野忠久博士の御助言を賜りました。深く感謝申し上げます。



写真 枝上のカツラマルカイガラムシ
雌成虫の大きさは約2mm。介殻に覆われている。

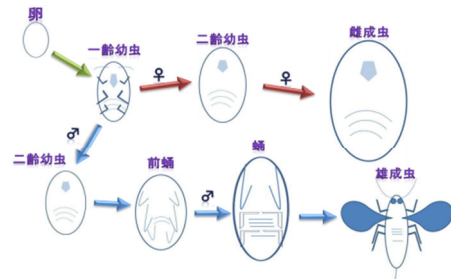


図1 カツラマルカイガラムシの成長過程
河合（1980）日本カイガラムシ図鑑を参考に作図

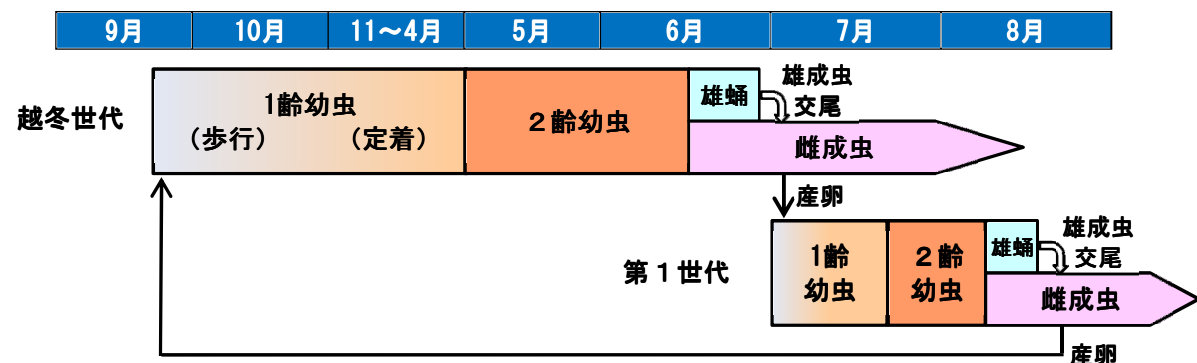


図2 カツラマルカイガラムシの生活史

注1：浦野（2013）の日本森林学会における発表を参考に作図したもの。

注2：わかりやすくするため、幼虫の齢の境や、幼虫と成虫との境を明確に作図したが、実際は突然に切り替わるものではない。

(担当 研究部 上席専門研究員 高橋健太郎)

連絡先	028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 岩手県林業技術センター ホームページアドレス http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/	TEL 019-697-1536 FAX 019-697-1410
-----	--	--------------------------------------